古文単語　敬語から主語を読む　③

名前 _____

高校／場面の説明なしで、敬語から人物と敬意の向きを決める　　日付 _____

尊敬語は「動作をする人」へ、謙譲語は「動作を受ける人」へ敬意を向ける。
敬意を表す人（だれから）は、地の文なら「作者」、会話文（「」の中）なら「話し手」。
表に、――線①～⑦の敬語の種類（尊敬・謙譲）、動作をする人、敬意の向き（だれから→だれへ）を書く。
人は記号で答える。
場面の説明はないので、本文の人物と敬語の種類から決める。

人物の記号　ア 作者　イ 親（翁と嫗）　ウ かぐや姫　エ 帝　オ 御使（帝の使い）

近く使はるる人々、竹取の翁に告げていはく、「……」といふを聞きて、かぐや姫にいふやう、「なでふ心ちすれば、かく物を思ひたるさまにて月を見①たまふぞ。うましき世に。」といふ。（中略）八月十五日ばかりの月にいで居て、かぐや姫いといたく泣き②たまふ。（中略）これを見て、親どもも「何事ぞ。」と問ひさわぐ。かぐや姫なくなくいふ、「さきざきも③申さんと思ひしかども、……」といひて、いみじく泣く。（中略）御使仰事とて翁にいはく、「いと心苦しく物思ふなるは、誠にか。」と④仰せたまふ。（中略）御使かへり⑤参りて、……を⑥きこしめして⑦のたまふ、「……」（竹取物語）

問1

	種類	動作をする人	敬意（から）		敬意（へ）
① たまふ				→	
② たまふ				→	
③ 申さ				→	
④ 仰せたまふ				→	
⑤ 参り				→	
⑥ きこしめし				→	
⑦ のたまふ				→	

問2　④「仰せたまふ」の動作をする人は、本文のどこにも書かれていない。そう決まる手がかりを書きなさい。

④

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます